

ペルー 冷凍果実の輸出が2020～2024年に年4%の成長

[FreshPlaza 2025年6月20日](#)

ペルー輸出観光促進庁(PromPerú)の分析によると、ペルーの冷凍アボカドと冷凍ブルーベリーの輸出は、ヨーロッパ市場での躍進により2020年から2024年の間に持続的な成長を遂げ、輸出額で年率2%、輸出量で同4%増加した。この好調な業績は、今年のペルー産冷凍果実全般の輸出量が世界全体で3%、米国市場で7%減少したこととは対照的である。

冷凍イチゴの輸出は、輸出額と輸出量とも年平均8%のペースで着実に成長した。パッションフルーツの冷凍果肉は、輸出額が26%、輸出量が14%増加して、1kg当たりの価格では51%上昇し(原文のまま)、このことはこの製品の再評価の証しである。さらに、新しい製品としてザクロの仮種皮(可食部)、ルクマの果肉、サワーソップ、チェリモヤ、アグアイマント(食用ホオズキ)等の各冷凍品でチャンスの扉が開き始めている。

世界を目指すルクマとチェリモヤ

マリポサアンディーナ社の執行役員であるグラシエラ・トルヒーヨ氏は、「ペルー原産の果実であるルクマとチェリモヤは、その郷愁を誘う価値により国際的に高い需要がある。これらの製品のチリと米国での消費は安定している」と述べた。

チェリモヤは、アジア、特に日本と韓国で関心が高まっており、焼き菓子へ利用の可能性が評価されている。トルヒーヨ氏は、「サンプルを送ったところであり、彼らは新しい風味を開発中である。取組みの進み方はゆっくりとしているが、大きな可能性を秘めている」と語った。

同社はこれら2品目のほか、イチゴ、マンゴー、ブルーベリー、有機パイナップル、パッションフルーツの半割冷凍果肉で製品の品揃えを多様化している。同氏は、「弊社の取引先は、ペルー産パッションフルーツの濃厚な風味を重視している。アジア産との競合があるが、風味の面でこちらに優位性がある」と述べた。

同社は米国、ヨーロッパ、アジアに拠点を置き、業務用の円筒型容器入りから100グラム入りの包装まで、あらゆるカスタマイズされたパッケージとオーダーメイドの対応に取り組んでいる。物流や気候関連の課題はあるが、今年は輸出が30%増加すると予測している。

有機オレンジとパイナップル果汁

セルバインダストリアル社はペルーの熱帯雨林で、熱帯果実に特化した唯一の個別急速冷凍(IQF)加工施設を運営している。同社のレンゾ・ゴメス代表は、濃縮オレンジ果汁、パッションフルーツ、有機MD2パイナップル、及び欧州では依然として新規食品として規制されているカムカム等の製品への取組みを強調した。

同氏は、「有機ビジネスは変動が少なく安定している。そのため、弊社はこの分野で成長しており、中でもMD2品種のパイナップルに力を入れ、果汁、ピューレ、IQF製品の形で提供している」と述べた。同社は12品目以上の果実を扱っており、製品の65%を欧州に、残りを米国に輸出している。

ゴメス氏は、アジアとオセアニアへの多角化戦略と、地域の生産者のネットワークの統合について強調した。同氏はまた、構造的な障壁として物流コストと気候関連のコストが過大であるとしつつ、「弊社は、熱帯雨林の小規模生産者に近いこととトレーサビリティで差別化を図っている。それが弊社の強みである」と述べた。

輸出観光促進庁(PromPerú)が国際ビジネスを後押しするバイヤー招聘事業を開始

貿易促進戦略の一環として、PromPerú は、ペルーの高価値商品・サービスのサプライヤーと国際的なバイヤーをつなぐ取組みとしてバイヤー招待事業を開始した。この事業は、ペルー南部展示会2025(アレキパ市、8月26～27日)、小売週間2025(リマ市、9月17～23日)及びペルー・中国展示会2025(リマ市、10月30日)の枠組みの中で実施される。

執筆者: ダイアナ・サジャミ (翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)